

平成 31 年度沖縄県認知症支援推進事業

若年性認知症支援者研修会 八重山地区開催 報告書

1. 研修会名：「平成 31 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 若年性認知症支援者研修会」
2. 目的：若年性認知症の一人ひとりが、その状態に応じた適切な支援が受けられることを目的とする。
3. 主催：沖縄県（受託 特定医療法人アガペ会）、 共催：認知症疾患医療センター
4. 対象：若年性認知症の初期対応相談窓口職員（市町村役場担当窓口職員・地域包括支援センター職員・認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チーム員・介護支援専門員・医療機関相談員・介護保険事業所の相談員など）を対象とする。
5. 方法：平成30年度作成 本人・家族のための若年性認知症支援ハンドブック第二版（沖縄県）並びに支援者のための若年性認知症支援ガイドブック（沖縄県）をテキストとして配布し、支援内容について沖縄県若年性認知症支援コーディネーターが説明を行う。
6. 開催地区並びに開催日、会場について

開催地区	開催日及び時間	会場と定員
八重山地区	2019年5月17日（金） 13時～15時（受付12:50から）	石垣市健康福祉センター 定員60名（石垣市字登野城1357-1）

7. 参加費：無料
8. 申し込み方法：専用申し込み用紙あり。用紙のない方は、開催地区を明記したうえで、氏名、所属先、連絡先を記入しFAX（098-943-4702）まで。
申し込み期間：平成31年4/1～各地開催日の前日まで。先着順とした。
9. テキスト：当日配布。
10. プログラム

司会進行・講師：若年性認知症支援コーディネーター

内容：ハンドブック、ガイドブックに沿って説明し、注意事項を伝達する。

1	県の現状	10分	はじめに、頁説明
2	医療	20分	気づき、診断されたら、医療との連携、病態について
3	制度	40分	利用できる制度について、障害者福祉制度、介護保険
4	仕事	15分	仕事について
5	子ども・車・生活	15分	子どもの支援、車の運転について、生活について、これからのこと
6	相談窓口	10分	交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について

11. 広報

新オレンジサポート室発信：チラシ郵送 4/23 県内 447 件

沖縄県発行 沖縄県認知症対応機関団体等リスト全カ所

県高齢福祉課発信：FAXにて県内資料福祉関係期間

12. 事前申し込み状況 申し込み者 68 名

13. 当日の様子 当日参加者数 47 名

内訳：医療7名、介護保険事業所28名、包括12名

運営協力：石垣市地域包括支援センター3名

1 4. 内容（特にお伝えしたこと）

相談対応の現状に対応した項目となっており、各内容については、ワーキングチームによる見解並びに確認作業によって完成されたことをお伝えした。

1	県の現状	ガイドブック P1 を読み上げる。若年性認知症支援コーディネーターの支援始まり、単身者が多い現状と、それに伴い介護者も高齢で支援が必要な状況であったことなどを説明。手続きの詳細など情報も必要となり、今回の支援者向けガイドブック作成に至ったことを説明。
2	医療	物忘れ＝認知症ではない。内科疾患も多い。気づき方は様々であるが、MC I も診断される。支援者の自己判断ではなく、エピソードをしっかりとめ、医療へ繋ぐことが望ましい。医療との連携で、かかりつけ医への相談後、鑑別診断が必要な場合には、認知症疾患医療センターへ相談という手続きを説明。認知症疾患医療センターへの繋ぎ方や鑑別診断に伴う費用についても事前に尋ねることも助言が必要。八重山圏域については、本島サマリヤ人病院とオリブ山病院の2箇所が担当となっている。電話相談され、受診の際には、滞りなく進むよう、早めに電話相談され、受診前にはFAX等で情報提供されるよう協力頂きたい。しかしながら、八重山圏域の皆さんは旅費まで負担がかさむため、鑑別診断に係る費用についても始めに確認頂きたい。ガイドブック P5 の疑いチェックリストの紹介。ワンストップとして設置された若年性認知症相談窓口の紹介。若年性認知症支援コーディネーター役割の説明。
3	制度	働き方の見直しに伴い減収するため、制度を駆使することは必須。まず自立支援を活用し、できれば同時に精神障害者保健福祉手帳の活用が初期対応として理想。手帳の優遇措置とその活用を説明。ガイドブック P18 その他の制度について説明。傷病手当金、障害年金について仕組みを説明。併給調整のリスクを把握し説明することが求められる。いきなり介護保険でない。障害者総合支援法を活用し、働く意識を継続することも重要。特に平成30年度新設の自立生活支援の展望について紹介。介護保険については最近の傾向である暫定のリスク、ガイドブック P32 の有償ボランティアについて、社会参加活動であることの説明。障害者総合支援法と介護保険の併用と、移行時期の見極めについて今後の課題を伝える。
4	仕事	ガイドブック P25 表を説明し、若年性認知症の人の働き方について説明。職場との調整方法並びに話し合う内容について、P26 チェックリストの活用を紹介。治療と仕事の両立支援について説明。
5	子ども・車・生活・財産	子どもの支援について、親の手帳で奨学金申請へ影響ある。奨学金については常に創設の動きあり、状況をチェックしてほしい。車の運転：認知症診断、認知症薬開始と法制度の説明。認知症者の運転技術、車輛保険加入確認の必要性を説明。生活について、これからのことについて本人への指導として、ハンドブック P25～P28 活用を紹介。財産管理についてガイドブック P39 を読み合わせ。

6	相談窓口	交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について説明
---	------	--------------------------

(質疑応答)

各項目に区切り、質問を伺ったが、参加者からの質疑は本日なかった。
疑問や不明な点があれば、後日、電話で対応しますとお伝えした。

15. アンケート結果： 回答 31名 回収率 65.9%

問：ハンドブック・ガイドブックの内容（仕上がり具合）について教えてください

	大変良い	良い	ふつう	悪い	大変悪い	無記名
ハンドブック	54.8%	35.5%	6.4%	0%	0%	3.2%
ガイドブック	61.3%	25.8%	9.7%	0%	0%	3.2%

問 ハンドブック・ガイドブックの次回の改定時に掲載が必要と思われることについて教えてください。

ハンドブックについて：

- ・精神科、神経内科、診療内科、受診する場合、みな同じでしょうか。
- ・診察について、専門医がいなくて、内科医の診断では認知症とだけ書いているが、どこで受診させたら良いか
- ・車の事故の具体例を掲載したほうが良かった。免許返戻を促進するためにも。

ガイドブックについて：

- ・制度が重複する場合の、「出来る」「出来ない」の図を載せて頂きたい
- ・地域の認知症外来について（記載がほしい）

感想：

- ・広範囲にわたり、若年性認知症について、支援ガイドブックこれから活用させていただきます。
- ・経済的支援の大切さがわかりました。支援者が制度について知らないと、適切な支援ができないので、ガイドブックを職場内で勉強しようと思っています。制度の申請について、独身で高齢の親の世帯が多い特徴の沖縄では、申請の手続きまでサポートしていく必要性を感じました。
- ・ひとつの問題は、いろいろな問題がくっついてくる。それをわかりやすく、ガイドブックを読むことで、気づきにつながると思います。
- ・わかりやすい
- ・仕事上、必要に応じて、使いたいと思います。すばらしい本ですね。感謝致します。若年性認知症が増えて行くので、ありがたいです。
- ・制度について細かく記載されていて保存版です。わかりやすく説明して頂きました

が、1回では頭に入らないので、必要な時に参考にしたいと思いました。

- ・ガイドブック P43 連携は今すぐにでも、活用させていただきます。
- ・研修会を多く聞いて、理解を深めたい。
- ・手続きが難しいかもしれないが、お金や今後を考えると大切な事だと思った。
- ・利用できる制度を理解して、経済的に苦しむことがないように、サポートをできるようにしたいと思いました。就労についても、無理なく笑顔で、働ける生活を目指したいと思いました。

16. 主催者の所感

参加者は介護保険事業所の介護支援相談員が主であったが、その後のサービス利用に係わる経済的支援であることを感じて頂いた。またガイドブックの活用を期待するコメントを多く頂いたが、（アンケートから）八重山地区の事情として「専門医がない場合の受診のあり方について」掲載を求められていた。次のガイドブック改定の際には、地域に対応する内容に努める必要があると感じた。

以上